

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リハリンクスおゆみ野		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 16日		2025年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60 家庭	(回答者数) 51 家庭
○従業者評価実施期間	2025年 1月 10日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 人	(回答者数) 6 人
○訪問先施設評価実施期間	2025年 12月 16日		2025年 1月 17日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	11	(回答数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全体的に利用児童が通所を楽しみにしていて、利用満足度が高いこと。 (放課後等デイサービス/児童発達支援)	利用児童が主体的に活動できるような声掛けをしている。利用児童との関係性を構築し、安心して過ごせる環境作りに留意している。また、日頃から保護者の方と情報の共有や利用時の様子をお写真や文書・口頭報告で共有し、事業所での様子が見えるようにしている。	今までの取り組みは引き続き継続し、不安を抱いている家庭には、説明や対話を繰り返しながら子育ての悩みや不安が解消できるように支援していく。
2	日々の面談や育児に対する助言ができていること。日々の相談・助言が助かっているとの声が多かった。 (保育所等訪問支援)	日頃から家庭や学校での様子を伺いながら、自宅での関わり方や解決策を保護者の方にフィードバックしている。また、一緒に子どもたちを育てていく伴走者として悩みや課題を共有している。	送迎を使っている一部の家庭には、直接お話できる機会が他の家庭より少なく、ペアレントトレーニングや相談の機会が少なくなってしまうので、面談の機会を意図的に増やしながら不安や悩みを解消していく。
3	保護者のニーズが反映された個別支援計画書が作成できていること。 (放課後等デイサービス/児童発達支援)	個別支援計画書作成に向けた面談で、保護者の方の日々の悩みや聞きながら、目標の設定をしている。また、こちらの見立てを伝えた上で、目標の共通理解が得られるように面談を進めている。	個別支援計画書の作成面談以外の時間も大切に、保護者の悩みや困りごとに寄り添いながら支援ができるようにしていく。こちらから積極的に面談の機会を設ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時の対応や、災害発生時の避難訓練の様子が保護者に伝わりづらいこと。 (放課後等デイサービス/児童発達支援)	緊急時の対応は毎年手紙を作成して、全家庭に配布しているため、把握している家庭が多かったが、避難訓練等の様子はインスタグラムなどSNSを通して発信が中心なので、保護者の認知度が低いことが原因として考えられる。	避難訓練の様子はSNSだけでなく、文書でも保護者に配布する。緊急時の対応マニュアルを保護者に公開する等。
2	放課後児童クラブや児童館など障害児通所施設以外との交流がないこと。 (放課後等デイサービス/児童発達支援)	現状、利用児童全員に個別療育を実施するため、時間と交流スペースの確保が難しい。	保護者の希望があれば、交流の機会を検討していく。
3	自己評価や事業所内の行事や活動の様子をSNSで発信しているのが利用者の広く知られていないこと。 (放課後等デイサービス/児童発達支援)	避難訓練の様子同様、SNSでの発信の認知度が低いことが考えられる。	ホームページの情報やSNSの情報を利用者に周知していく。